

令和 7 年度 県立古河第二高等学校自己評価表

目指す学校像	生徒一人一人が、自らの夢の実現のため、いきいきと安心安全に学ぶことのできる学校づくりを力強く推進するとともに、社会性や公共心を備えた地域社会に貢献できる有為の人材を育成する。		
三つの方針	具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	(長期的目標) 社会性や公共心を備えた地域社会に貢献できる有為な人材の育成	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	(中期的目標) 生徒の幅広い学習ニーズに対応した教育課程と進路実現	
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	(短期的目標) 自分の進路実現を目指して積極的に取り組む生徒	
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
分かる授業の実践や朝の時間のドリル学習等を通して基礎学力の習得に一定の成果が見られた。また、授業内容はもとより進学希望の生徒に対する課外学習を含む発展的な学習機会の確保はその意欲の喚起・維持に貢献した。さらに、介護福祉士国家試験の合格率は70.4%であった。引き続き、基礎・発展両面の学力伸長を支援する。特にICT活用能力の向上とそのための研修の実施、評価基準の更なる適正化を図り、主体的に学ぶ意欲の喚起に努める。 進路指導では、多くの取組により生徒の	主体的に学ぶ意欲の喚起と基礎学力の向上、 不断の授業改善に向けた取り組み	①各教科及び教科横断的な相互授業参観を実施し、分かる授業を実践することで生徒の学ぶ意欲を喚起し、授業や家庭学習に主体的に取り組む姿勢を身につけさせる。 ②学び直しをはじめ、生徒の基礎学力向上への取り組みや支援を積極的に推進する。 ③生徒が意欲的に授業に取り組めるよう、ICT活用を含む学習指導に関する研修を推進し「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業への工夫・改善、評価基準の適正化を図る。 ④「生徒による授業評価」における「授業満足度」において、中間値と比較した最終値の向上および最終値平均3.2以上を目指す。 ⑤行事の精選と適正な実施に努め、国家試験受験要件を満たすための授業時間を確保する。 ⑥生徒の実態や進路希望に応じた特色ある教育課程の編成に努めるとともに、発展的な学習の機会を確保する。	A

別紙様式 2 (高)

進路意識の醸成に一定の成果が認められた。大学の一般入試及び医療看護系専門学校等の合格者も増えている。課外を含む進学クラスへの支援のあり方や就職希望生徒の早期からの動機付け、進路情報の適正かつ効率的な提供等が課題である。 生徒支援では、全般的な生活態度の落ち着きが成果としてあげられる。一方、基本的な生活習慣の確立やルール・マナーの遵守、公共心・社会性の涵養、個別の配慮を要する生徒への組織的支援等が課題である。 特別活動においては、学校行事・部活動への満足度は向上した。キャリアパスポートを活用した非認知能力の育成が課題である。ラーケーションについては、体験活動が生徒の自己開拓に結びつくような効果を期待したい。 広報活動では、本校の特色・魅力への認知が進んでいると思われるが、両学科において定員を満たすことができなかった。今後の少子化を見据え、一層の広報活動の工夫と推進が課題である。	進路に関する知識と関心・意欲の高揚、進路指導の充実 問題行動の予防と再発防止、自己指導能力の育成	⑦福祉科において介護福祉士国家試験の合格率 80%以上を目指す ⑧3年間を見通した体系的・計画的な進路指導を実施し、生徒が自らの将来を見据えて進路決定できる意識の高揚に努めるとともに、そのための情報発信に取り組む。 ⑨年間指導計画の充実を図り、課外学習、進路講演会やコース別進路見学会等に注力する。 ⑩進学・就職の両面において、進路先のさらなる開拓と充実に努力する。 ⑪インターンシップをはじめとする生徒の職業観・勤労観を育む機会を設定し、「キャリア教育」の推進に尽力する。 ⑫就職内定率 100 %、早期離職の未然防止等を図るため、適正かつ効率的な情報提供や生徒一人一人とのより充実した面談により、的確な進路実現を目指す。 ⑬生徒の進路決定満足度 80%以上を目指す。 ⑭教科選択や授業内容・評価等に、類型ごとの特色や目標を明確にし、希望する進路に応じた進路指導を推進する。 ⑮規律ある基本的生活習慣の定着や問題行動の未然防止・早期発見に努める。特に SNS 利用に関する指導の機会を確保する。 ⑯規範意識を高めるとともに、授業や特別活動等教育活動全体を通じて、コミュニケーション能力や自己指導能力、公共心等を育成する。 ⑰スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の外部人材及び専門機関等と連携して、生徒の健全な心身の発達を支援すると共に、特別な配慮の必要な生徒等を含めた生徒理解に努め、組織的かつ的確な指導にあたる。 ⑱いじめ防止対策推進法、児童虐待の防止等に関する法律に則り、生徒の人権を最大限に守ることに努める。	A A
---	--	---	---------------------------

別紙様式 2 (高)

働き方改革については、勤務時間の縮減は徐々に進みつつある。定時退勤日・完全退勤時刻の遵守、職場環境の改善が課題である。	特別活動への積極的参加による豊かな心の育成、キャリアパスポートの活用	⑱キャリアパスポートを積極的に活用し、学校行事・生徒会活動・ホームルーム活動・ボランティア等を通じて生徒の豊かな心を育み、主体的に学校生活や社会活動に参画する意欲を育てその充実を図る。 ⑳部活動の果たす役割を再確認しながらその積極的な参加を促し、効率的・効果的な活動に向けた工夫を図ると共にその活性化を支援する。	B
	地域への情報発信と相互支援体制の充実	㉑ホームページの更新を含め、生徒の活動や普段の取り組みの様子、本校の特色等を、家庭や地域社会に適正に発信する手立てを工夫する。 ㉒探究活動を含むあらゆる機会を通してPTA、中学校、地域社会と課題を共有し、信頼と相互支援により連携・協働して生徒育成を図る体制を構築する。	B
	持続可能な学校教育活動のための働き方改革の推進	㉓なお一層の業務内容の精選、効率化と平準化を図り、定時退勤日・完全退勤時間の遵守に努める。 ㉔働きやすくやりがいを感じられる職場環境の構築に向けて、相互承認と支え合う教職員関係を醸成し、多様化する価値観に対応できる意識面の改革を図る。	B
	不祥事根絶に向けた取り組み	㉕教育公務員として、生徒の人格形成を支援する重大な責務を担っているという自覚を常に持ち、教員と生徒が互いを信頼し合い、誇りを持って教育に取り組む教員集団であることを目指す。	B

校 務 部					
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
教務	授業時間を確保する。	学校行事を精選し、関係各所との調整を行うことで授業時間を確保する。(⑤)	B	B	○定期考査における、欠席者等の把握方法について改善を図る。 ○日本語の理解が不十分な生徒に対しての効果的な指導・援助の方策を検討する。 ○評価と学習指導を適切に関連付けるための方策を確立し、周知する。 ○観点別評価について、教科内での認識や基準のばらつきをなくしていく手立てを考察する。 ○I 類のカリキュラムについて、現状に即した見直しをする。
		授業の振替を原則として授業交換を行い、やむを得ない場合を除き、自習時間をなくす。(⑤)	A		
	基礎学力向上及び学習意欲を増進する。	教員の学習指導等についての研修を確実に推進し、特にタブレットやPCを活用した授業について研修を行う。(①③④)	B		
		教科による「学び直し」を推進し、基礎力の確実な定着につなげる授業改善を促すことで、各教科の授業評価平均値 3.2 以上を達成する。(②④)	A		
		保護者との連携をさらに強めるとともに、観点別評価を授業改善に確実に反映させることで成績不振者の改善を促す。(②)	B		
	教育課程を適切に編成する。	生徒の実態や進路希望に適応した教育課程を検討し、さらなる改善を図る。(⑥)	B		
生徒支援	個々の生徒が抱える内面的課題を組織的に把握し、適切な対応により健全な心身発達の支援に努める。	学年・担任、家庭等と連携し、個別面談や家庭訪問等により問題を把握し、適切に対応することにより、問題行動の未然防止・早期発見、対応に努める。(⑪)	A	A	○生徒会と連携し、生徒が主体的にルール、マナー、モラルを守る意義を考えさせる活動を行う。 ○学校全体で統一した指導、支援を行うために基準や方法を明確化する。 ○現代の社会状況や学校の状況を鑑みて、内規を見直していく。
		スクールカウンセラーや保健部等と連携することで教育相談の充実を図る。(⑪)	A		
		いじめの対応については、未然防止と早期発見、早期対応に努め、重大事態に至ることのないようにする。(⑫)	A		
	規範意識の高揚に努め、自己指導能力の育成を図る。	ルールを守る意義を理解させ、自ら考え適切な行動選択ができるよう支援する。(⑮⑯)	B		
		規律ある基本的生活習慣の定着を目指し、面談・HR・集会等、さまざまな形を組み合わせる。(⑮⑯)	A		
		学校全体で統一した指導となるよう、各学年との連携を図るとともに、時代に即した生徒支援のあり方を目指す。(⑮)	B		
	特別な配慮を要する生徒を把握し、個に応じた指導に努める。	支援を必要とする生徒はもとより、周囲の生徒も安心して学校生活を送ることができるような視点で体制を構築する。(⑪)	B		
		教職員の研修等を通して意識高揚に努めるとともに、外部の専門機関と適宜連携することで生徒理解に基づく的確な指導を心がける。(⑪)	A		
進路指導	職業観および進路意識を高めるためにキャリア教育を	進路見学会(1・2 学年)や進路セミナー等の外部との関わりを通じて、進路意識を高めるように努める。(⑧⑨)	A		○各学年で行っている企画、行事等の総括を集約し、次の学年に整理した情報を提供する仕組みを

別紙様式 2 (高)

	充実させる。	職業意識を高めるために、各学年で段階的な指導を行う。とくにインターンシップや、一日看護体験を実施して意識付けを行う。(⑪)	B	A	活用することで、改善されたことを蓄積させ、組織体の力を徐々にベースアップさせる。 ○進路指導部の学年所属スタッフが、他学年で実施している行事内容についても概要を把握できる仕組みを作る。 ○担当教員の負担感が大きい場合は、課外を縮小する。
	教員間の適切な進路情報の共有をはかる。	進学・就職とも進路情報交換会を開き、次の学年に的確な情報をおくる。(⑧) 大学や専修学校等の説明会に参加し、的確な情報を教職員・生徒に提供する。(⑨)	B A		
	生徒の適性を把握するとともに、進学・就職とも生徒のより高度な目標実現のための手助けをする。	朝ドリル、課外学習の時間等を計画し、生徒の基礎学力を高め、進路実現の可能性を高めていく。(②⑥)	A		
		生徒の進路満足度を 80%以上にする。(⑬)	A		
		教科選択、授業内容、評価、課外等に類型ごとの特色や目標を明確にし、進路指導を行う。(⑭)	A		
保健	基本的な生活習慣を身に付ける態度の育成を図る。	掲示物等を活用した情報発信を行い、健康に関する知識を養う。(⑮)	B	B	○基本的な生活習慣を定着させるための方策について、手立てを模索する。 ○関係職員との連携を密にし、情報共有に努める。
	健康教育・健康相談を推進する。	疾病等の予防と自身の健康管理を積極的に行えるようにする。(⑮)	B		
		性に関する講演会を実施する。(⑮)	B		
		心身の健康状態を把握し、適切な支援・援助を行う。(⑰⑱) 関係職員と情報を共有し、個別の健康相談等を行う。(⑰⑱)	B A		
特別活動	生徒会活動の活性化を図る。	生徒会役員が、率先垂範して生徒たちに自覚ある行動を促すことができるよう指導する。(⑯⑰)	B	B	○生徒会役員と定期的にミーティングを実施し活動をより活性化することで、生徒会活動に主体性を持たせ、学校行事のみならず普段の学校生活にも反映させることができてきた。生徒主体の活動を今後も継続する。 ○特別活動部会の定期的な開催と、役割分担の明瞭化を今後も継続していく。
		生徒総会やクラスマッチ、文化祭などの学校行事について、クラスへの自主的・自発的な行動を促し、生徒を主体とした企画・運営が行えるよう、計画的に指導する。(⑰)	A		
	学校行事へ積極的に参加する態度を育成する。	各ホームルーム役員や各種委員会の委員として、クラスマッチや文化祭などの学校行事に積極的に参加する態度を育成するとともに、キャリアパスポートを活用して非認知能力の育成を図る。(⑰)	B		
		学校ホームページなどを活用した広報活動の充実を図る。(⑰⑱)	C		
	部活動の活性化に努める。	部活動連絡板や学校ホームページ等を利用し、各部活動の活動状況や活躍を全校生徒に向けアピールする。(⑳㉑)	B		
		部活動紹介や体験入部を行い、部活動加入率の向上を図る。(㉒)	A		
		日ごろの練習や練習試合等を通して、部活動全体の活性化及びレベルアップを図る。(㉒) 日々の活動や学校内外の生活の中での規範意識を育てる。また、活動場所の整理整頓を心がけ、活動環境を整備美化する。(⑰⑳㉑)	A B		

別紙様式 2 (高)

	ホームルーム活動を充実させる。	クラスマッチや文化祭などの学校行事を通じて、達成感を味わわせクラスの連帯感や協調性を養う。(19②1)	A		
		ホームルーム活動でキャリアパスポートを積極的に活用し、定期的に振り返りを行うことで自己理解につなげ、非認知能力の育成を促す。(19②1②②)	C		
図書	図書館施設を充実させる。	書架や図書館資料の保管状態を定期的に点検し、適正な状態で利用できるよう配慮する。(1)	B	B	○蔵書の管理や配架の適正化を図る。 ○学校司書を適正に配置する。 ○読書を啓発し、図書委員会活動を活性化する。
		館内施設の安全と利便性を考慮に入れて、備品の入れ替えやレイアウトを工夫する。(1)	B		
		図書館及び視聴覚室の授業等での利用について、利用表を作成し管理する。(1)	A		
	図書館の資料を拡充する。	図書資料は、「全国学校図書館協議会図書選定基準」などの客観的な基準および本校の実情に沿って選定・受入し、廃棄も検討する。(8⑧19)	A		
		蔵書構成の偏りを是正し、教科指導にも利用できる図書資料を選定・受入する。(3⑧⑧19)	B		
	図書館資料と利用者管理を一元化する。	管理ソフトを活用して作業効率を高め、適切な引継ぎができるよう役割分担を見直す。(23②4)	A		
	図書委員会の活性化と読書習慣の涵養を図る。	図書だよりを年9回発行し、新刊書の紹介によって読書への興味・関心に繋げる。また、新聞スクラップを行い、資料の充実を図る。(8⑧19)	B		
		図書委員会を計画的に実施する。(19)	B		
渉外	家庭・地域と連携し、PTA活動を活性化させる。	生徒育成を目指す観点から、総会やその他の行事の実施に向けて、役員と協力してPTAの運営を行う。(22)	A	A	○各行事の開催や実施、刊行物の発行を継続する。 ○保護者や同窓生との連携・協力を継続し、各行事の円滑な実施を目指す。
		保護者に興味・関心を持って読んでもらえるような広報誌「志意の樹」を発行して、生徒の活動や普段の取り組みを地域社会に発信する手立ての一つとする。(21)	A		
	同窓会運営を円滑に行う。	同窓会の運営を役員と協力し、円滑に実施する。(21)	A		
情報管理	情報機器管理を徹底する。	機器貸出に職員室・職員PC室のロッカー等を利用する。情報機器管理範囲を明確化する。校務セグメントでのインターネット接続及び校内ネットワーク環境を維持管理する。(23)	A	B	○Google Classroom、Google フォーム等のアプリや、電子黒板を使用して授業の中に協働作業を導入するなど、ICT利用をさらに進める。 ○遠隔授業を行う際の学習者用端末の準備や設定をスムーズに行えるようにする。 ○校務支援システムで成績処理をする際に、ミスが起きないように操作方法を周知する。
	情報漏洩未然防止のためにPCデータ管理を徹底する。	PCデータの中で生徒の個人情報に関するものはサーバに保存する。校務支援システムで成績処理を行い、データをクラウド型校務処理サーバに保存する。また、個人保有の外部記憶媒体の利用を禁止し、持ち帰り仕事をなくすように職員間の情報交換を促す校内ネットワークを構築する。(23②4)	B		
	情報機器を活用して授業でのICT利用を進める。	学習者用端末を活用した授業が実施できるように環境を整える。(1①②③) 普通教室でのICT利用のための教員の自主研修を促す。(3)	B		

別紙様式2（高）

環境防災	学校の安全管理・環境整備・美化に努める。	施設設備の安全点検と管理に努める。(⑰)	B	A	○新入生の避難経路と防災意識の確認をオリエンテーション時に行い、また避難訓練時に新任職員の初期消火訓練も導入する。
		防災訓練等を実施し、非常時の対応を学ばせ、併せて防火・防災への意識を高める。(⑱)	A		
福祉	福祉を担う人材として必要な素養と精神を育てる。	生徒の福祉人材としての意識を少しでも高められるように、様々な人との関りや体験を通して学ぶ機会を多く設ける。(⑧⑪)	A	A	○実習の受け入れ困難、実習中止ということがあったものの、施設との大きなトラブルはなく、実習等を行うことができた。今後も実習施設を中心に地域と連携し、介護福祉士養成校としての役割を果たすよう努める。
	地域と連携し介護福祉士養成校としての役割を果たす。	実習施設との連携を強化し、生徒にとって実習が充実したものになるように努める。(⑧⑪⑫)	A		
		近隣中学校に対して本校福祉科に関する説明を積極的に行うとともにホームページ等で生徒の活動や普段の取り組みの様子などを発信し、目的意識を持った生徒の確保に努める。(⑳㉑)	A		
		介護福祉士養成における情報交換に努め、介護福祉士養成カリキュラムに対する理解の周知徹底と指導の充実を図る。(⑭⑲㉒)	A		
教 科					
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
国語	授業目標に沿う授業計画を作成し、担当者が連携することで授業の向上に努める。	指導状況の情報や教材を交換したり、研究協議を有効活用したりすることによって、わかる授業の展開・授業改善に供する。日々の授業改善を通して授業満足度最終値平均3.2以上を目指す。(①④)	B	B	○漢字検定受験に向けた促しを強化する。 ○基礎学力向上のための計画的な小テスト・単元テストを継続して実施する。 ○カリキュラム内容を定着させ、日常生活に活かせる力を育む。
	副教材を活用し、基礎学力の定着を図る指導方法を工夫する。	小テストや単元テストを計画的に実施するなど、語彙力を高め授業内容の理解を確認する学習課題を工夫し、希望進路実現のための基礎学力定着を図る。(②)漢字検定試験への参加を促すとともに、適宜教材を提供して、生徒の学習に寄与する。(②⑥)	B		
	生徒がより積極的に授業へ参加できるよう方法を工夫し改善する。	生徒の学力に見合った課題や発問の工夫、ICT 機材の活用による視覚的支援によって、授業への積極的参加に供する。(③)	B		
地歴公民	基礎学力の定着を図り、主体的な探究に導く工夫や支援を行う。	小テストを実施して学習内容の定着の度合いを確認する。生徒の興味・関心を持続させ積極的に授業に参加できるよう、タブレットや電子黒板等の視聴覚教材やレプリカなどの実物教材を活用する。学年ごとに最低限身につけさせる知識を教科全体で共有し協力して指導する。(②③)	B	B	○1年生の授業では、小テストの実施を継続する。 ○2年生は、教科書の内容のみならず、日本地図のテストを行うなど、一般常識の確認に努める。 ・3年生では、小テストなどを実施し、定期考査の結果にもつなが
	指導方法・評価方法の工夫・改善に努める。	授業進度や生徒のようすなどの情報交換を密に行い、わかる授業や考えさせる授業の指導方法及び説明責任を意識した公平な評価方法について、相互授業参観や	B		

別紙様式 2 (高)

		研究協議などを通して共有する。(②③)		B		るよう工夫する。
	授業展開を工夫・改善する。	教員と生徒間で学習目標を共有し、既習内容等を確認しながらわかる授業を展開するとともに、主体的に考えさせる授業展開を目指す。ノートやプリントの提出により、受け身の受講姿勢からの脱却を意識づけさせ、授業満足度評価平均 3.2 以上を目指す。(①③④)				
数学	基礎学力の向上および発展学習のための支援を積極的に行う。	少人数指導によるきめ細やかな指導を行い、その成果と課題を明確にし、改善を図る。(①)	A	A		○実生活や実社会との関連を考えさせるなど、思考力・判断力・表現力を身に付けられるような授業を心掛ける。 ○基本的事項を理解していない生徒が多いため、グループワークを効果的に行うための工夫を検討する。 ○数学の授業の中での ICT 利用を更に進める。
		小、中学校で学んだ考え方や計算を学び直し、プリントを使い基礎学力の向上を図る。(②)	B			
		理解度が不十分な生徒への分かり易い補習授業や、進路を意識した高度な課外授業を実施する。(①②)	B			
	学習習慣の定着に努める。	授業中のノートや家庭学習用の問題集等を定期的に点検し、学習する習慣をつける。(①)	A			
	教員間の連携をとり授業内容の改善を図る。	教科会等で、授業進度や学習状況等の情報交換、わかる授業展開について指導方法を研究協議する。そして授業改善を通して、授業満足度評価平均 3.2 以上を目指す。(③④)	A			
		コンピューターやタブレットなどを活用し、授業改善を図る。(③)	A			
理科	学びなおし学習を導入し、自然現象に関する基礎学力を身に付けさせる。	中学校での既習内容を振り返るとともに、単元ごとに学び直しと問題演習の時間を取り、自然現象に関する基本的な学習内容の定着を図る。(②)	B	A		○ICT 活用をより深めていくために、活用方法を教科内で共有することを継続する。 ○各教員が行った「授業の振り返り」「演習」などのデータを集約し、Google Drive 等で共有することで作業の効率化を図る。 ○生徒からの疑問に応えられるよりよいコンテンツを探す。
	探究する力を身に付けさせる。	観察・実験の実施や振り返りなど、ICT も活用しつつ、探究の過程に沿って思考・判断・表現させる。(③)	A			
	興味・関心を高め、学習意欲の向上に努める。	実験や ICT 機器を用いた授業を行い、科学的な現象を身近に体験できる機会を作ること、生徒による主体的な学びを促す。また、授業評価アンケート等を実施し、その結果による授業改善を通して、授業満足度評価平均 3.2 以上を目指す。(④)	A			
英語	基礎学力の向上を図る。	学び直しにより中学既習内容を身に付け、高校レベルの英語に対応できるようにする。また、授業改善を通して、授業満足度評価平均 3.2 以上を目指す。(②④)	A	A		○基礎英語力向上を目指した定期的な小テスト等を実施する。 ○個々の生徒が主体的に学習に取り組めるペアワーク、発表、グループディスカッションなどの授業を充実させる。 ○ALT の授業が 1 度もなかったクラスもあったため、うまく全体で活用できるように工夫する。
	個々の生徒の能力や実態に応じた指導をする。	少人数学級や TT を活用し、適宜学習の理解度を把握し、個に応じたきめ細やかな指導を展開する。(①⑥)	A			
	言語や文化に対する理解を深め、実践的コミュニケーション能力を高める。	ペアワークやグループ活動を通してアウトプットする機会を増やし、コミュニケーション力をつけさせる。(⑩)	A			
		ALT を活用することによって、英語でコミュニケーションを図る喜びを感じさせ	B			

別紙様式 2 (高)

		る。(③)			
保健体育	基礎体力を高める。	様々な運動通じて身体活動量の確保を目指す (①)	A	B	○体育授業におけるスキルテスト (技能) について各学年で段階的な難易度に設定する。 ○単元 (種目) ごとに怪我の起きやすい部位やケースを想定し、事前指導を徹底し未然防止を図る。 ○体育授業において、生徒間で参加意欲に差異があるため段階的な課題を設定するなど工夫する。
		運動の基礎技術について理解し、多様な動きが可能な身体づくりをめざす。(②)	B		
	運動に親しむ態度を育てる。	ゲームなどを通して、仲間と協力して運動に取り組む楽しみを経験させる。(③)	B		
		各競技において、多様な教材を通じて競技が特有する本質的な楽しさを理解させる。(③)	B		
	自らの心身について関心を高めさせる。	様々な身体活動を通じて、自らの心と身体が一体となっていることを理解させる。(③)	B		
家庭	学習内容の確実な定着を図る。	小テストの実施や振り返りシートの記入、ワークシートに自分の考えを記入させることで、基礎基本の学習事項が定着するよう促す。(①②)	A	A	○ICT を活用する際に、課題設定を生徒の難易度に合わせることや、調べて終わりではなく、実生活に結びつけて自分の考えを持てるような問いかけを行う。 ○グループ学習を積極的に取り入れ、生徒同士で意見交換が活発にできるような授業構成にする。 ○調理実習において、次年度は片付けまで徹底的にできるよう工夫する。
		パソコンやタブレット端末など、ICT の活用や、実物投影機や視聴覚教材を活用し、生徒にとって理解しやすい授業を実施し、授業の満足度を 65%以上になるように努める。(③④)	A		
	考える力・実践力を育成する。	実習に加え、学校家庭クラブ活動を通して実技能力の向上を図る。(②)	A		
		ホームプロジェクトの実施により、問題解決のために必要な考える力を養う。(②)	B		
芸術	芸術的な資質・能力を伸ばし、美に対する感性を高めるとともに、感興・意欲の触発と高揚に努める。	生徒が意欲的に学習に取り組めるよう、ICT 活用を含む学習指導を実践し、「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業への工夫・改善、評価基準の適正化を図る。(③)	B	B	○自ら様々な書表現の効果に気づき、理解を深められるような探求的 ICT 機器の活用を工夫する。 ○自己の演奏技能の向上に生かすことができるような ICT 機器の活用方法を考案する。 ○生徒同士の対話的学習を取り入れ、深い学びを促進する。
		生徒の学習実態に即し、分かりやすい授業展開に努めるとともに、相互授業参観や教科研修などを通して、授業満足度評価平均 3.2 以上を目指す。(④)	A		
	学習態勢の整備に努める。	規律ある生活習慣を定着させるため、授業で使用する用具の準備・片付け等をきちんと行う習慣を付けさせる。(⑤)	A		
情報	情報リテラシーを高める。	情報収集・情報編集・情報発信の方法について実習を通して理解する。(①)	A	A	○プログラミングについては、昨年度より難易度を上げたが、生徒は対応できていたので、来年度も高度な内容での指導を継続する。 ○A I の使い方については指導が出来なかったため、その使い方や社会的なルールについても指導を行う。
	情報機器の操作技術を高める。	情報機器としてパソコンの使い方、特にワープロや表計算、プレゼンテーションソフトの使い方についての技術を習得し向上させる。(①)	A		
	情報モラル育成に努める。	問題解決の方法の一つとしてプログラミングを習得する。また、情報モラルを遵守する精神を要請する。(③)	A		
	授業の改善を行う。	生徒に授業内容に関するアンケートを行い、それを基に授業の改善を行うことで、授業の満足度の平均が 3.2 以上になるように努める。(④)	B		

別紙様式 2 (高)

福祉	福祉人材としての意識と資質を向上させる。	福祉行事や施設実習の他、ボランティア活動や特別支援学校との交流を通して、意欲の向上に取り組むとともに、キャリアを生かした進路につなげる。(⑧⑪⑱)	A	B	○介護実習において、直前になって実習施設を変更することや実習途中で中止となったことがあり、実習施設変更もやむを得ない措置となったが、大きなトラブル等なく、終えることができた。 ○授業に取り組む姿勢や態度、清掃への取り組み姿勢が芳しくなかったため、日ごろから取り組めるよう生徒への指導を徹底する。
		授業や清掃・学校行事等の日常生活を大切に、基本的生活習慣・礼儀・マナーの向上を図る。(⑫⑲)	B		
	介護福祉士国家試験に向けた指導を充実させる。	介護福祉士国家試験合格率 80%以上を目指し、十分な授業時間数の確保と基礎・基本を重視した分かりやすい授業を心がけるとともに、課外・模擬試験・演習・実習等多様な指導を実施する。(⑤⑥⑦)	A		
		新しい指導法や I C T 活用を含む授業改善を通して、授業満足度 3.2 以上を目指す。(③④)	A		

学 年					
評価項目	具体的目標	具体的方策		評価	次年度（学期）への主な課題
1 学年	生徒相互の円滑な人間関係や、教員との信頼関係を構築する。	コミュニケーション能力を高めるために、授業や「総合的な探究の時間」、L H R 等において話し合いの機会を積極的に設け、互いに意見を尊重する姿勢を育てる。(⑫)	A	B	○コミュニケーション能力が低いことによりトラブルが発生している事が多かった。コミュニケーション能力を上げ、お互いに信頼関係を築けるような行事等を多く行う。 ○細かいルールの基準を明確にし、生徒に対して差のない指導を行う。また、違反した生徒に対す指導内容をしっかり決め、同じ事を繰り返さないようにする。 ○基本的生活習慣が身につけていない生徒も見られるので、生活態度を見直し、基本的生活習慣が身につくように指導を行う。 ○進路に対する意識付けを行い、3 年生に向けてある程度の進路決定が出来るように指導する。 ○学校行事に自ら進んで参加し、社会に参画する態度の育成を養うため、生徒 1 人 1 人に向き合った指導を行う。 ○外国籍の生徒が日本での生活に対応できるように、学習指導と併せて、コミュニケーション能力
		生徒と丁寧に関わり、生徒の小さな変化や抱えている悩み、問題点の早期発見に努め、家庭や専門機関と連携しながら迅速に対応する。(⑰)	A		
	学習環境を整備し、基礎学力を向上させる。	落ち着いた学習環境を作るために、身の回りの整理整頓、チャイム前着席を励行する。(②)	B		
		朝の時間や週末課題などを活用した学び直し、家庭学習の習慣化に注力し、基礎学力向上を目指す。(②)	A		
		生徒の特性に合わせた学習指導を考え、丁寧に指導を行うことで、すべての生徒の学力向上を目指す (②)	B		
	基本的生活習慣を確立するとともに、規範意識の醸成を図る。	学年職員一体となって、服装、挨拶、マナーの指導を行い、生徒の規範意識を高め、自ら考えて適切に行動する力を育てる。(⑫)	A		
		「5・3・1 運動」を励行し、基本的生活習慣を確立する。(⑮)	B		
	3 年間を見通した進路設計を立案し、実践する。	生徒の進路意識を高めるため、進路見学会や外部講師による講演会を実施する。(⑨)	A		
		職業を知り、自己を見つめ、自分の適性に応じた進路選択を支援する。(⑧)	A		
	特別活動へ積極的に参加する。	社会生活を営む力を高めるため、積極的に部活動への加入、ボランティアの参加を働きかける。(⑱・⑲)	B		

別紙様式 2 (高)

		キャリアパスポートを積極的に活用し、学校行事やホームルーム活動等を通じて主体的に学校生活に参画する意欲を育てる。(16)	B		を育成する。 ○ICTの活用方法をもっとグレードアップさせ、生徒や保護者に対しての連絡を迅速に行うとともに、先生方の校務の軽減を図る。
	働き方改革を推進する。	クラスへの連絡や校務に対して、ICTを活用し、業務の効率化を行い、残業時間の短縮に努める。(23)	A		
2 学年	生徒相互の円滑な人間関係や、教員との信頼関係を構築する。	各授業、学校行事、「総合的な探究の時間」、LHR等を通して話し合いの機会を積極的に設け、コミュニケーション能力の向上に努めるとともに、他者を尊重し、協力・協働する姿勢を育成する。(16)	B	B	○生徒間で協力・協働するためにコミュニケーションを深める機会を積極的に設け、生徒自身で課題解決に向かう姿勢を身に付けさせる。 ○セミナーや講演会、マナー指導等を通じて、「なりたい自分」と「今の自分に足りないもの」を自覚させ、自発的に考えて行動する力を育てる。 ○学年全体で「どのような人間に育てて社会に送り出したいか」を共有し、整容指導や進路指導などでそれを生徒に伝えながら一体感を持って指導にあたる。 ○朝学習を継続し、基礎学力と一般常識力の向上をはかり、就職試験や入試に向けた土台を作る。 ○日々の細やかな声かけと随時面談、情報共有を徹底し、少しの変化も見逃さずに問題行動等に迅速に対応できるよう努める。 ○特別指導を行った生徒に対しては、再発防止のために事後面談を定期的に行うことを徹底する。
		生徒と丁寧に関わり、生徒の小さな変化や抱えている悩み、問題点の早期発見に努め、家庭や専門機関と連携しながら迅速に対応する。(17)(18)	A		
	基本的生活習慣を確立するとともに、規範意識を醸成する。	欠席・遅刻・早退を減少させるため、引き続き「5・3・1運動」を励行する。(15)	B		
		学年職員一体となって服装・挨拶・マナーの指導を行い、生徒の規範意識を高め、自ら考えて適切に行動する力を育てる。(15)(16)	A		
	目的意識を持って学ぶ姿勢と課題解決能力を育成する。	次年度の進路実現を見据え、授業だけでなく朝の時間、週末課題などを活用し、基礎学力の定着と語彙力・一般常識力の向上を目指す。(1)(2)	A		
		目的意識を持って学習に臨めるように発表・資格取得を励行し、生徒自身が学びの成果を実感できるような指導に努める。(1)(2)(6)	A		
		平和学習、多文化共生、各種講話など、総合的な探究の時間の学びを通して自ら課題を発見し、解決する力を育てる。(1)(2)(6)	B		
	進路に対する意識を高揚させ、目標の具体化を図る。	生徒の実態に応じた進路計画を立案し、進路セミナーやバス見学会、インターシップ等の実施により、進路実現に向けての意識を高める。(8)(9)(11)	A		
		定期的な進路調査や面談等により進路目標を明確にし、自ら積極的に具体的な取り組みができるよう支援する。(8)(12)	A		
	特別活動を通じて豊かな心を育成する。	キャリアパスポートを積極的に活用し、学校行事やホームルーム活動等を通じて生徒の豊かな心を育むとともに、主体的に学校生活に参画する意欲を育てる。(19)	B		
3 学年	基礎学力を活かした応用を身に付ける。	「朝ドリル」等を活用し、進路に応じた学力を身に付ける。(2)	B	B	○朝ドリルの時間の活用について、クラス間でばらつきが出ないよう、生徒のモチベーションが維持できるように工夫する。 ○学年として資格取得のための活動・指導について、生徒に身に付けさせたい資格について精選する。 ○I 類の進学指導は、担任・副担
		生徒が主体的・意欲的に学べるよう授業を改善しながら、自己解決能力を身に付けられるようにする。(3)	B		
	進路に対応できる能力を身に付けさせる。	多くの資格取得を目指し、その能力を生かして進路実現につなげる。(10)	C		
		「LHR」や「総合的な探究の時間」の中で進路学習を計画し、生徒各自の進路に応じた系統的なプログラムを立案し実施する。また生徒の政治的教養の教育を学年全体で取り組み、社会に参画する態度を育てる。(14)	B		

別紙様式 2 (高)

		進路希望者に平日の課外・長期休業中の課外や小論文指導を、就職希望者に面接指導を実施することで、生徒の進路希望に合わせた進路実現を目指す。 (⑨)	A		の負担が大きいため、進路部主導で学年や学校全体に割り振ることで、より丁寧な指導ができる体制を整える。 ○進路決定後から遅刻や欠席が増えたため、生徒が自ら変わろうとするのに有効な指導・声掛けを考えていく。
	基本的な生活習慣を確立する。	自己実現に向けて、学校生活の送り方について自ら考えさせ、健康的で意欲的な生活習慣への変容を促す。また、毎日の生活を見つめ、規律ある基本的生活習慣の定着を目指す。(⑮)	B		
		学校生活の全ての場面で、適切な言葉遣いを使い、適切な行動を取ることができるよう指導する。(⑯)	B		
	特別活動へ積極的に参加し、豊かな心を育成する。	キャリアパスポートを継続的に活用し、学校行事やホームルーム活動等を通じて生徒の豊かな心を育むとともに、主体的に学校生活に参画する意欲を育てる。(⑲)	B		

※ 評価基準 A：大変よくできた B：よくできた C：やや不十分 D：不十分